

平成27年度
(公社)全日本鍼灸学会通常総会
資料

同封の委任状をお忘れ無く
ご返信のほどお願い申し上げます

日 時 平成27年5月23日(土) 13:00~14:00

場 所 ビッグパレットふくしま
〒963-0115 福島県郡山市南二丁目52番地

平成27年度（公社）全日本鍼灸学会 通常総会資料目次

平成27年度通常総会開催通知	1
平成27年度通常総会式次第	2
I. 平成27年度事業計画	
1. 事業計画総括	3
2. 各部事業計画	5
1) 事務局	5
2) 学術部	6
3) 研究部	8
4) 編集部	8
5) 組織部	9
6) 国際部	10
7) 広報部	10
8) JLOM関連委員会	11
9) 認定委員会	12
10) グランドデザイン改革推進委員会	12
11) スポーツ鍼灸委員会	13
12) WFAS Tokyo/Tsukuba 2016	14
3. 平成27年度収支予算	15
II. 平成26年度事業報告及び決算	
1. 事業報告総括	18
2. 各部事業報告	20
1) 事務局	20
2) 学術部	21
3) 研究部	23
4) 編集部	24
5) 組織部	25
都道府県別会員数	26
6) 国際部	27
7) 広報部	27
8) JLOM関連委員会	29
9) 認定委員会	31
10) グランドデザイン改革推進委員会	31
11) スポーツ鍼灸委員会	32
3. 平成26年度財務諸表及び附属明細書並びに財産目録	33
4. 平成26年度監査報告書	33
III. 規則または規程変更の件	
会員規程案の件	34

平成27年4月22日

(公社) 全日本鍼灸学会
会 員 各 位

(公社) 全日本鍼灸学会
会長 後藤 修司

平成27年度通常総会開催通知

平成27年度通常総会を下記により開催いたしますのでご通知申し上げます。

記

日 時 平成27年5月23日(土) 13:00～14:00

会 場 ビッグパレットふくしま
福島県郡山市南二丁目52 TEL 029-947-8010

報 告 1. 平成27年度事業計画
2. 平成27年度予算
3. 第66回学術大会開催地の件
4. 第65回学術大会準備報告

議 案 第1号議案 平成26年度事業報告
第2号議案 平成26年度貸借対照表の件
第3号議案 平成26年度損益計算書(正味財産増減計算書)の件
第4号議案 平成26年度貸借対照表及び損益計算書
(正味財産増減計算書)の附属明細書の件
第5号議案 平成26年度財産目録の件
第6号議案 規則または規程変更の件
第7号議案 その他

※ 総会出欠葉書(委任状)は総会の出欠にかかわらず必ずご投函下さい。

以 上

平成27年度 通常総会

日 時：平成27年5月23日(土) 13:00～14:00

場 所：ビッグパレットふくしま

次 第

司 会：事務局長 齋藤 隆夫
開会の辞：副 会 長 久光 正
挨 拶：会 長 後藤 修司
議 長： 副議長：

定足数の確認：会員総数 2,888 名
出席者数 名
委 任 状 名
計 名

議事録署名人：議長

議 事

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 平成27年度事業計画（総括） | 事務局長 齋藤 隆夫 |
| 2. 平成27年度予算 | 財務部長 齋藤 隆夫 |
| 3. 第66回（平成29年度）学術大会開催地の件 | 学術部長 福田 文彦 |
| 4. 第65回（平成28年度）学術大会準備報告 | 学術部長 福田 文彦 |
| 5. 平成26年度事業報告（総括） | 事務局長 齋藤 隆夫 |
| 6. 平成26年度貸借対照表の件 | 財務部長 齋藤 隆夫 |
| 7. 平成26年度損益計算書（正味財産増減計算書）の件 | 財務部長 齋藤 隆夫 |
| 8. 平成26年度貸借対照表及び損益計算書
（正味財産増減計算書）の附属明細書の件 | 財務部長 齋藤 隆夫 |
| 9. 平成26年度財産目録の件 | 財務部長 齋藤 隆夫 |
| 10. 監査報告 | 監 事 宮本 俊和 |
| 11. 規則または規程変更の件 | 定款等改正検討委員会委員長 安藤 文紀 |
| 12. その他 | |

閉会の辞： 副 会 長 安藤 文紀

I. 平成27年度事業計画

1. 平成27年度 事業計画（総括）

I. 事業の内容：公益社団法人の目的を遂行するために次の事業を行います。

公益目的事業と認定された事業

1. 鍼灸医学に関する研究の進歩普及を図るため、学術大会、支部学術集会などを実施する
 - 1) 第64回（公社）全日本鍼灸学会学術大会（ふくしま大会）の開催
平成27年5月22日（金）～24日（日）の3日間：ビッグパレットふくしま
 - 2) 支部学術集会及び支部研修会の開催
 - 3) 学術大会実行委員会への参加及び企画調整
 - 4) 学会発表応募抄録の審査委員会の開催
2. 鍼灸医学の学術の向上と普及を図るため調査、資料収集を行う事業
 - 1) 鍼灸の有用性・安全性・経済性に関する情報の収集と発信
 - 2) 国民のための鍼灸医療推進機構（AcuPOPJ）の活動参加
 - 3) データベース委員会：JACLIDの充実、維持管理文献評価研修会の継続
3. 鍼灸医学の学術の振興を図るための助成事業
 - 1) 公募研究助成の継続
 - 2) 公募により国際学会に会員派遣
4. 鍼灸医学の発展普及を図るため学術雑誌などの発行や鍼灸医学の情報を公開する事業
 - 1) 全日本鍼灸学会雑誌の発行：年4回発行（65巻2号～66巻1号）
 - 2) オンライン英文雑誌の発行
 - 3) 学会ホームページによる情報発信
 - 4) メールマガジン、FAXマガジンの配信

収益事業等と認定されたもの

1. 学会が認定する、認定登録鍼灸師を育成するため、学会在籍5年以上の正会員で、別に定める履修基準を満たしたものが、認定試験を経て認定証を付与する事業及び学会会員の優秀なる研究業績に対して表彰する事業
 - 1) 認定指定講座の審査
 - 2) 認定委員会・認定審査委員会・認定試験委員会・認定実務委員会の開催
 - 3) 支部学術集会・A・B講座への助成
 - 4) 認定登録者への認定証の交付
 - 5) 高木賞選考委員会の開催及び高木賞・奨励賞の授与

その他の事業

1. 内外の関連学協会との連絡及び協力に関する事業
 - 1) 海外鍼灸関連情報の収集と日本への紹介
 - 2) 日本鍼灸関連情報の海外への紹介
 - 3) 世界鍼灸学会連合会（WFAS）、その他国際機関への対応
 - 4) WFAS Tokyo/Tsukuba 2016
 - 5) その他

2. その他この法人の目的を達成するために必要な事業
 - 1) 入会審査の実施
 - 2) 支部活動の支援
 - 3) JLOM関連委員会の活動
 - 4) 鍼灸医学の啓蒙と普及:一般向けの公開講座、講演会の開催

II. 会議の種類

会務を円滑に運営するために次の会議を行う

1. 通常総会
2. 理事会
3. 常務理事会
4. 顧問参与会議
5. 諮問委員会
6. その他の会議
 - ①支部運営委員会
 - ②グランドデザイン改革推進委員会
 - ③認定委員会
 - ④鍼灸学術団体協議会
 - ⑤スポーツ鍼灸委員会
 - ⑥各部委員会及び小委員会

III. 諸規則の制定及び改定に関すること

1. 諸規程の見直しと改正
2. 内閣府への報告

2. 平成27年度 各部事業計画

1) 平成27年度 事務局事業計画

I. 会務運営のための諸会議に関すること及び会議録の作成並びに保管

1. 通常総会
平成27年 5月 23日 (土) : ビッグパレットふくしま
2. 諮問委員会
平成27年 5月 22日 (金) : ビッグパレットふくしま
3. 理事会
 - 1) 平成27年 4月 19日 (日) : 日本鍼灸会館
 - 2) 平成27年 5月 22日 (金) : ビッグパレットふくしま
 - 3) 平成27年 11月 29日 (日) : 日本鍼灸会館
 - 4) 平成28年 2月 14日 (日) : 東京医療専門学校代々木校舎
4. 常務理事会
 - 1) 平成27年 4月 19日 (日) : 日本鍼灸会館
 - 2) 平成27年 7月 26日 (日) : 日本鍼灸会館
 - 3) 平成27年 11月 29日 (日) : 日本鍼灸会館
 - 4) 平成28年 2月 14日 (日) : 東京医療専門学校代々木校舎
5. その他の会議
 - 1) 支部運営委員会
 - ①平成27年 5月 22日 (金) : ビッグパレットふくしま
 - ②平成27年 11月 29日 (日) : 日本鍼灸会館
 - 2) 顧問参与会議
 - 3) グランドデザイン改革推進委員会
 - 4) 認定委員会
 - 5) 定款等改正検討委員会
 - 6) 鍼灸学術団体協議会
 - 7) スポーツ鍼灸委員会
 - 8) 施術事故等緊急対策連絡会
 - 9) 選挙管理委員会
 - 10) 各部委員会及び各部小委員会

II. 庶務、事務局及び職員に関すること

1. 事務局備品、事務消耗品等の在庫管理
2. 会員情報の管理
3. 会員入退会の対応と処理
4. 通信文書等の処理

III. 官公庁及び鍼灸関連団体との渉外に関すること

1. 官公庁、諸団体からの文書、書簡の整理、保管及び対応
2. 内閣府へ報告、書類提出
3. 鍼灸関連団体との連絡調整

IV. 監事による理事の職務執行監査作成

V. その他、他部の所管に属さない事項

2) 平成27年度 学術部事業計画

I. 学術部の基本方針

鍼灸における「学」と「術」を根拠に基づいた医療（EBM: evidence-based medicine）、根拠に基づいた鍼灸医療（EBAM: evidence-based acupuncture medicine）として質を高め、患者に安全で効果的な鍼灸医療を実践できるための成果発表や情報交換、卒前・卒後教育の場、「学会に参加して勉強になった」「学会には勉強に行くのだ」という学会・学術大会を目指す。

II. 学術大会における企画・方向性

1. 「学」と「術」の質の向上（研究過程・成果の発表、ディスカッション、批判的吟味の場の提供）
 - 1) 学術大会における一般演題の企画：演題募集、抄録審査、演題採否、セッション、座長選任
 - 2) 学術大会におけるパネルディスカッション、シンポジウムの企画：実行委員会と調整
 - 3) 学術大会における研究の方向性を考える企画：研究委員会と調整
2. 最新の鍼灸・医療情報提供（鍼灸師教育）
 - 1) 学術大会におけるセミナーの企画
 - 2) 学術大会における教育セミナーの企画
3. 根拠に基づいた鍼灸医療が実践できる鍼灸師育成（卒後）
 - 1) 学術大会におけるワークショップの企画
4. これからの鍼灸師を育てる（卒後教育）
 - 1) 学術大会におけるゼミナールの企画

平成27年ふくしま大会における学術部・研究部の継続した企画

 - ・セミナー（ここまでわかった鍼灸医学）：学術部　・教育セミナー：学術部
 - ・パネルディスカッション：スポーツ委員会関連
 - ・パネルディスカッション：医療推進関連
 - ・パネルディスカッション（鍼灸と国際問題）：JLOM関連委員会
 - ・ワークショップ（ステップアップ鍼灸臨床研究）：学術部、研究部
 - ・ワークショップ（安全性委員会、データベース委員会）：研究部
 - ・ゼミナール（鍼灸臨床ゼミナール）：学術部
 - ・サテライトステップアップセミナー：学術部
 - ・チャリティーマラソン大会：スポーツ鍼灸委員会主催
 - ・その他：高木賞表彰式、高木賞授賞講演、学生ポスター発表、学生ポスター表彰式
 - ・会議関係：理事会、支部運営委員会、顧問参与会議、諮問委員会、鍼灸学術団体協議会

Ⅲ. 学術部の事業計画

1. 学術部委員会の開催（年2回予定）

学術部の基本方針、事業計画案及び具体的なアクションプランを策定するために委員会を開催する。

2. 学術大会の企画・支援

1) 第64回（公社）全日本鍼灸学会学術大会（東北支部：平成27年、2015年）

企画調整委員会・実行委員会の企画、準備支援

平成27年5月22日（木）－24日（日）「ビッグパレットふくしま」にて開催

2) 第65回（公社）全日本鍼灸学会学術大会（北海道地区：平成28年、2016年）

企画調整委員会・実行委員会の企画、準備支援

平成28年6月10日（木）－12日（日）「札幌コンベンションセンター」にて開催予定

3) 第66回大会（公社）全日本鍼灸学会学術大会（関東支部：平成29年、2017年）

企画調整委員会・実行委員会の立ち上げ、企画、準備支援

4) 抄録審査委員会の開催

抄録審査委員会を開催する。

※学術大会運営規定の見直しと支部運営委員会における開催地決定の調整

3. 支部学術集会について

支部の学術集会が充実・発展するよう相談・協力等の支援を行う。

4. 高木賞選考委員会の開催

故高木健太郎会長から寄贈された基金をもって、優秀な研究論文に対し高木賞を授与するために高木賞選考委員会を高木賞選考規程に則り実施する。

5. 鍼灸学術団体協議会について

学術大会開催期間中に鍼灸医学に関連する学術団体と学会のあり方について検討するために会長が招集し、学術部が運営する。

Ⅳ. 「グランドデザイン2020」に基づく改革状況

1. 学術大会の見直し

平成29年開催の第66回（公社）全日本鍼灸学会学術大会（関東支部担当）から新たな学術大会を目指して検討する。

具体的な見直し内容（案）

- ・大会開催期間
- ・大会会場
- ・参加費
- ・大会企画
- ・他学会との連携企画（シンポジウムの共催など）
- ・基礎研究者のための企画の充実
- ・一般演題における英語セッションの企画（英語ができる鍼灸師の育成：国際部との連携）など

2. 日常臨床に役立つ最新の知識や技術が習得できる企画、立案、実施（スキルアップセミナー、e-ラーニング含む）

現在、学術大会時にスキルアップセミナーを有料（学会参加費と別料金、認定）にて実施しているが、会員の卒後教育のための企画を検討する。また、その卒後教育が学会の収入源の一部になるシステムで構築する。

3) 平成27年度 研究部事業計画

I. 学術大会に関する事業

1. 第64回学術大会でのワークショップ開催（研究部単独および学術部共同）
2. WFAS Tokyo/Tsukuba 2016への参画（国際部、学術部ほかの部門）

II. 鍼灸の研究・教育・啓発に関する事業

1. データベース委員会
JACLIDの維持管理・機能充実、文献評価研修会の継続、ふくしま大会でワークショップ開催
2. 安全性委員会
安全性に関する情報の収集と整理、Webサイト管理・更新、ふくしま大会でワークショップ開催、有害事象に関する多施設前向き調査のデータ分析
3. 診療ガイドライン委員会
鍼灸診療ガイドラインの検討、他領域の診療ガイドラインの鍼灸に関する記載内容の検討
4. その他
鍼灸の有効性・安全性・経済性に関する情報の収集と発信
国民のための鍼灸医療推進機構（AcuPOPJ）への協力

III. その他

1. 2014ふくしま大会実行委員会および2015北海道大会実行委員会への協力
2. 他の部署との共同・連携作業
 - 1) 編集部・広報部との連携によるJACLIDおよびJ-Stageへの本学会誌収載
 - 2) ISO/TC 249安全教育関連（JLOM関連委員会）
 - 3) 学術部との共同ワークショップ

4) 平成27年度 編集部事業計画

I. 学会誌の編集、広告、発行、配布に関すること

1. 学会誌の発行
 - 1) 65巻2号（平成27年 5月発行予定）
 - 2) 65巻3号（平成27年 8月発行予定）
 - 3) 65巻4号（平成27年11月発行予定）
 - 4) 66巻1号（平成28年 2月発行予定）
2. Japanese Acupuncture and Moxibustion (JAM) 2014-15 アップロード（随時更新予定）
3. 編集委員会
 - 第1回 平成27年 3月開催予定
 - 第2回 平成27年 6月開催予定
 - 第3回 平成27年 9月開催予定
 - 第4回 平成27年12月開催予定

II. 学会誌の原稿・資料の収集に関すること

1. 投稿原稿、依頼原稿の収集
2. 第63・64回学術大会企画の原稿依頼とその収集
3. その他、学会員の学術向上に寄与する解説、総説等の原稿依頼とその収集
4. 学会雑誌に掲載された原著論文の翻訳とJAMへのアップロード

III. 会報の掲載

1. 学会誌への会報掲載

IV. その他

1. MEDLINE 収載に向けての検討
2. 学会用語集の作成準備
3. 学会雑誌データベースの整理

5) 平成27年度 組織部事業計画

I. 会員情報の管理（事務局）

II. 学生会員から正会員への入会促進（広報部）

III. 関連学会からの入会促進（広報部）

IV. 入会促進 学生勧誘セミナーの開催（広報部）

V. 学校協会教職員へのアンケート調査（広報部）

VI. 会費納入方法の検討（事務局）

VII. 組織改革素案の作成（理事会、定款等改正検討委員会）

VIII. ネット会員の検討（広報部、学術部、研究部）

IX. IT化の強化（広報部、学術部、研究部）

X. 会議

1. 組織部会議 5月23日または24日 郡山
2. 組織部会議 10月
3. 関係部署との会合 逐次

6) 平成27年度 国際部事業計画

I. 海外鍼灸関連情報の収集と日本への紹介

1. 学会誌の「世界の鍼灸コミュニケーションズ」シリーズ、「国際学会報告」シリーズを継続する。

II. 日本鍼灸関連情報の海外への紹介

1. 英語版ホームページのさらなる改訂と充実を行う。

III. 世界鍼灸学会連合会 (WFAS)、その他の国際機関への対応

1. WFAS Tokyo/Tsukuba 2016の準備を部署ごとに具体的に進める。
2. 日韓ワークショップの今後の予定について大韓鍼灸学会 (KAMS) と対応を行う。
3. 公募により国際学会に会員を派遣する。
4. 世界の鍼灸研究・教育の状況を正確に会員に伝えるため、定点観測的に海外の学会、公的機関の活動をモニターする。
5. 海外の学会等へ学会誌を寄贈する。

IV. 国際部会議開催

学会理事会に連動して国際部会議を定期的に行う。

V. その他

7) 平成27年度 広報部事業計画

I. Webの維持管理

1. 本会Webサイトサーバーの維持管理 (業者に依頼)
2. 本会WebサイトCMS更新管理 (業者、広報部員の協力)
3. 本会WebサイトSSLによるセキュリティー管理 (業者に依頼)
4. 支部学術集会・研修会等の情報収集及び告知
5. Webサイト内容整理
6. メーリングリスト維持管理

II. 学術大会Webサイトの管理

学術大会Webサイトの運用及び学会Webサイトとの連携等の補助

III. メールマガジン登録者数 (特に学校教員) 増加促進計画

メールマガジン登録者数増加を促進させるための広報キャンペーンを展開

Webサイト、Facebook等を活用して会員内外 (特に学校教員) 未登録者に対して、登録促進を図る。

IV. メールマガジン・FAXマガジン発行・配信

『お知らせ』、『トピック』、『学術大会情報』、『支部集会の開催告知』などは随時配信、A・B・C講座紹介配信は毎月1日発行で、会員を中心に配信

V. アンケート調査実施

学術大会、支部集会時にアンケート調査を行う。

VI. 一般向け・会員向け・海外向け案内告知ツールの作成

VII. 海外からの日本鍼灸見学者受け入れ窓口

海外からの日本鍼灸見学者受け入れについて、国際部と共同で受け入れ先の紹介や滞在中のフォローを行う。

VIII. 会議の開催

必要に応じて開催

8) 平成27年度 JLOM 関連委員会事業計画

I. ISO/TC 249 (IEC/TC 62) における鍼灸領域の国際規格策定会議への参加

1. 第6回 Plenary meeting (5月または6月、開催地：中国)
 2. WG3, WG4会議 (日程未定)
 3. WG3, WG4で扱う案件(鍼電極低周波治療器、皮内鍼、安全性関連規格等) Project leaderとの会議
- *上記2、3については日本開催も視野において検討する。日本で開催する場合、経済産業省からの助成金、JLOM 予算、また企業からの協賛金を募り、JSAM 単独予算支出とならないよう配慮する。
- *ISO/TC 249 WG3で鍼灸領域の安全性に関する規格策定がscopeに含まれることが決定したことから日本としてもJSAM 研究部安全性委員会メンバー等と連携を図りISO 会議での提案や他国提案への対応を行う。

II. WHO ICD (国際疾病分類作成) 事業への対応

1. ICD Chapter 23 のField trial 等の事業に協力する(伝統鍼灸学会との連携)
2. 1以外のICD関係プロジェクトへの協力、国際会議への出席

III. ISO/TC 215 における鍼灸領域の国際標準策定会議への参加

1. TC 215 Meeting (4月：サンフランシスコ、10月：未定) への参加と鍼灸関連案件への対応(関連する国内会議を含む)

IV. 鍼灸領域の国際標準策定に関する情報収集と国内対応会議の開催

1. 医療機器の標準策定に関する情報収集と国内対応
 2. 国内外における鍼灸教育(教科書など)および鍼灸領域の安全性の標準策定に関する情報収集と対応
 3. 鍼灸用語・情報の標準策定(WHO/ICTM, ISO/TC 215)に関する情報収集と国内対応
 4. 各国の鍼灸関連諸制度に関する情報収集
- *上記事業に関しては関連する学会の部署と連携を取りながら行う。

V. 国外における鍼灸領域の標準策定の現状調査

国際部、研究部との協力の下に、必要な調査を実施する。

VI. 伝統医学の国際標準策定の現況に関する啓蒙活動の実施

1. WHO, ISOでの国際標準策定に関わる経緯、現況、展望に関する outreach の実施
2. 医療情報学分野の標準化に関する workshop の実施

VII. 標準策定に関係する省庁への連絡

鍼灸領域の標準策定に関する報告を必要に応じて関係省庁（厚生労働省医療機器審査管理室・経済産業省生活文化局・医療機器医薬品総合機構など）に対して行う。

9) 平成27年度 認定委員会事業計画

I. 認定講習の審査

支部学術集会・A・B研修及び地方団体(グループを含む)認定講習申請に対する審査及び指定通知の発行

II. 認定審査委員会の開催

認定登録者の審査

III. 認定実務委員会の開催

認定制度推進実務の検討

IV. 認定試験委員会の開催

認定試験問題の作成及び試験の実施と合否判定

V. その他

認定指定講習会一覧（学会誌同封）の発行

10) 平成27年度 グランドデザイン改革推進委員会事業計画

I. 事業内容

1. JSAMグランドデザイン2020実現のため、各部からご提案をいただいた改革案の評価要望を行い、常務理事会で平成27年度中に改革案がまとまり、平成28年から改革が実施できるよう支援する。
2. JSAMグランドデザイン2020実現のため、事業計画、予算など学会活動を評価し、理事会に提案・要望を行う。

II. グランドデザイン改革推進委員会の会議日程

1. 第1回 平成27年5月30日（土）13：30～17：00
 - ①各部からの提案について検討
 - ②年度内に改革案をまとめるための方策についての検討
2. 第2回 未定

Ⅲ. 常務理事会への出席

1. 平成27年 4月19日 (日)
2. 平成27年 7月26日 (日)
3. 平成27年11月29日 (日)
4. 平成28年 2月14日 (日)

11) 平成27年度スポーツ鍼灸委員会事業計画

I. 「第64回学術大会ふくしま」

1. シンポジウムの開催

テーマ；「東京オリンピック・パラリンピックに向けた鍼灸再考～サッカー界における鍼灸の可能性を探る！」

座長とシンポジスト (案)

- ・ブラインドサッカー日本代表 ドクター 木下 裕光 先生
フットサル日本代表の帯同経験もあるスポーツドクター
- ・ロンドンオリンピック サッカー日本代表トレーナー 後関 慎司 先生
鍼灸師、日体協公認アスレティックトレーナー、Jリーグチームや代表チーム帯同
- ・ブラインドサッカー日本代表選手 加藤 健人 選手
福島県福島市出身の鍼灸師資格を有する
- ・サッカー選手 (福島ユナイテッドFCから招聘)

2. 『ブラインドサッカー』展示ブースの開設

パラリンピック正式種目のブラインドサッカーはブラインドスポーツとして様々なメディアで注目を浴び始めている。学術大会開催時にブラインドサッカーの体験会を開催することで、視覚障害スポーツ関係者だけでなく、健常者へのアピールにもなり、その結果学会参加者数の促進に役立つと考える。

3. マラソン大会の開催

学術大会開催時にマラソン大会を開催する。第64回学術大会ふくしま大会が初めての試みである。参加予定人数70人。

平成27年5月24日開催

4. 「スポーツ鍼灸の定義」の検討

日鍼会、全鍼師会と協力してスポーツ分野における連携を強化する。定義、ガイドラインの作成に向けた準備を行う。

5. スポーツ鍼灸フォーラム

日鍼会、全鍼師会と本学会によるフォーラムの開催

6. JSAMHPの作成

スポーツ鍼灸に関する情報を発信する。

12) 平成27年度WFAS Tokyo/Tsukuba 2016事業計画

I. WFAS Tokyo/Tsukuba 2016の広報活動

1. ホームページを立ち上げる。
2. 広報パンフレット等を作成し配布する。
3. WFASトロント大会において広報ブースを設置する。

II. 実行委員会開催

定期的に行行委員会を開催する（年間4回予定）。

III. その他

公益社団法人全日本鍼灸学会

平成27年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日) 収支予算内訳表

公益目的事業

- ※1 鍼灸医学に関する研究の進捗等を促すため、学術大会、文部科学委員会などを実施する事業。
- ※2 鍼灸医学の学術の向上と普及を図るための調査、資料収集を行う事業。
- ※3 鍼灸医学の学術の振興を図るための誌会事業。
- ※4 鍼灸医学の発展普及を図るため学術雑誌などの発行中、鍼灸医学の情報誌を発行する事業。

収益事業等

学会が定する、認定誌編集発行を推進するため、学会が専ら以上の正会員で、別に定める募集基準を満たしたものが、認定誌編集に当たって認定誌に付する事業及び正会員の提供による研究発表に代して実施する事業。

法人会費

法人会費の管理、運営にあたるための管理内訳。

(金額単位：円)

	公益目的事業(外注費は別記にて中央)					公益事業等合計	法人会費	内閣府交付金	他収入
	会1	会2	会3	会4	小計				
1 一般財団法人的業務									
1. 経費増減の部									
1. 経費増減									
基本財産運用益	667	117	51	105	1,280	61	1,280	0	2,560
基本財産増減益	667	117	51	105	1,280	61	1,280	0	2,560
基本財産増減利益	667	117	51	105	1,280	61	1,280	0	2,560
入会金	834,894	78,880	33,488	75,803	890,000	28,270	790,730	0	1,620,000
入会金	834,894	78,880	33,488	75,803	890,000	28,270	790,730	0	1,620,000
正会員入会金	810,270	74,977	32,958	73,382	860,000	28,270	790,730	0	1,600,000
賛助会員入会金	24,624	3,903	2,530	2,421	30,000	0	0	0	20,000
会費	15,574,720	1,094,423	942,902	1,383,047	20,040,000	267,340	19,730,300	0	40,340,000
会員会費	15,781,285	1,070,000	930,000	1,360,177	20,000,000	264,700	19,430,200	0	39,940,000
正会員会費	12,888,811	1,000,000	900,000	1,400,000	16,000,000	790,414	15,214,000	0	32,000,000
学生会員会費	2,631,495	318,000	330,000	511,000	3,480,000	168,300	3,230,000	0	6,000,000
賛助会員会費	777,631	64,000	30,000	60,000	940,000	0	0	0	940,000
半年会費	38,898	4,680	2,341	4,770	50,000	0	47,500	0	100,000
会費増収委員会	199,490	23,400	10,308	22,870	250,000	12,070	237,730	0	500,000
正会員増収委員会	199,490	23,400	10,308	22,870	250,000	12,070	237,730	0	500,000
専攻収益	24,343,100	0	0	0	24,343,100	1,366,000	0	0	25,709,100
協会・学術大会収益	21,600,000	0	0	0	21,600,000	0	0	0	21,600,000
参加費	14,824,000	0	0	0	14,824,000	0	0	0	14,824,000
出版金	1,800,000	0	0	0	1,800,000	0	0	0	1,800,000
広告宣伝費	4,000,000	0	0	0	4,000,000	0	0	0	4,000,000
雑収益	30,000	0	0	0	30,000	0	0	0	30,000
会員向け事業収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有価証券売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高木賞収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高木賞収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文庫刊行収益	4,680,000	0	0	0	4,680,000	0	0	0	4,680,000
参加費	4,680,000	0	0	0	4,680,000	0	0	0	4,680,000
協賛委員会事業収益	0	0	0	0	0	1,200,000	0	0	1,200,000
認定事業等	0	0	0	0	0	200,000	0	0	200,000
認定事業等	0	0	0	0	0	200,000	0	0	200,000
認定事業等	0	0	0	0	0	200,000	0	0	200,000
DVD販売収益	0	0	0	0	0	20,000	0	0	20,000
雑収益	840,478	224,874	820,816	820,822	3,300,000	280	10,000	0	3,340,000
受取利息	7,739	907	408	908	10,000	490	9,510	0	20,000
運用財産利息	7,739	907	408	908	10,000	490	9,510	0	20,000
広告料	880,000	850,000	830,000	830,000	3,390,000	0	0	0	3,360,000
広告料	880,000	850,000	830,000	830,000	3,390,000	0	0	0	3,360,000
雑収益	7,739	907	408	908	10,000	490	9,510	0	20,000
雑収益	7,739	907	408	908	10,000	490	9,510	0	20,000
経費収支計	49,790,897	2,824,260	1,700,181	2,782,047	54,198,385	2,367,340	19,310,890	0	73,000,000
	59,490,400	3,897,000	2,330,170	2,824,270	70,000,000	3,340,000	26,700,000		

(金額単位:円)

	当年度の事業会計(貸方側)(円)					当年度繰り越し	法人会計	内債借付増減	当年度
	会1	会2	会3	会4	小計				
I. 経費費用									
事業費	48,831,873	6,094,047	2,838,948	3,877,881	62,173,663	2,212,383	0	0	64,386,046
会費増設費	8,809,000	0	0	0	8,809,000	0	0	0	8,809,000
会費費	8,809,478	238,200	14,737	34,883	9,137,300	48,324	0	0	9,185,624
印刷広告費	6,664,332	1,538,288	1,908,885	1,835,889	12,957,404	302,978	0	0	13,260,382
通信費	2,137,640	1,380,235	506,858	895,821	4,920,554	306,213	0	0	5,226,767
読書交際費	8,805,554	648,241	134,879	147,998	9,736,672	436,869	0	0	10,173,541
宝器手取料	11,138,888	368,169	201,803	877,838	12,586,698	194,216	0	0	12,780,914
福利給費	1,635,830	86,082	16,900	28,781	1,767,693	371,218	0	0	2,138,911
支払助成金	300,000	0	0	0	300,000	300,000	0	0	600,000
会費	1,500,000	1,400,000	0	0	2,900,000	0	0	0	2,900,000
事務局人件費(労務課別費含む)	3,834,882	387,020	176,838	183,182	4,601,922	218,363	0	0	4,820,285
事務局賃借料	860,847	68,287	34,148	44,783	1,008,065	46,969	0	0	1,055,034
経理事務費	50,788	4,007	2,871	3,882	61,948	8,240	0	0	70,188
経理事務費	1,171,845	79,718	46,876	74,822	1,373,261	62,586	0	0	1,435,847
文書費	131,533	6,947	8,218	8,385	155,083	7,132	0	0	162,215
雑費	29,894	2,033	1,188	1,901	34,916	1,802	0	0	36,718
事業費小計	48,831,873	6,094,047	2,838,948	3,877,881	62,173,663	2,212,383	0	0	64,386,046
管理費	0	0	0	0	0	0	8,623,186	0	8,623,186
役員報酬	0	0	0	0	0	0	589,000	0	589,000
事務局人件費(労務課別費含む)	0	0	0	0	0	0	1,738,744	0	1,738,744
会費費	0	0	0	0	0	0	82,875	0	82,875
印刷広告費	0	0	0	0	0	0	878,916	0	878,916
読書交際費	0	0	0	0	0	0	2,838,183	0	2,838,183
宝器・寄附品費	0	0	0	0	0	0	188,645	0	188,645
事務局賃借料	0	0	0	0	0	0	384,884	0	384,884
通信費	0	0	0	0	0	0	680,647	0	680,647
経理事務費	0	0	0	0	0	0	717,479	0	717,479
経理事務費	0	0	0	0	0	0	123,833	0	123,833
文書費	0	0	0	0	0	0	92,886	0	92,886
雑費	0	0	0	0	0	0	13,386	0	13,386
管理費小計	0	0	0	0	0	0	8,623,186	0	8,623,186
経費費用計	48,831,873	6,094,047	2,838,948	3,877,881	62,173,663	2,212,383	8,623,186	0	70,807,049
当期経費増減額	△ 8,897,847	△ 3,196,982	△ 828,882	△ 882,194	△ 11,046,713	155,000	10,898,719	0	0
II. 経費外増減の部									
1. 経費外収益									
経費外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 経費外費用									
経費外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経費外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
繰上計上調整額	77,600	0	0	0	77,600	△ 77,600	0	0	0
前期一般正味繰上調整額	△ 5,896,345	△ 3,196,982	△ 828,882	△ 882,194	△ 10,806,403	77,600	10,898,719	0	0
一般正味繰上調整額									65,682,569
一般正味繰上調整額									65,682,569
III. 正味繰上調整額									
前期繰上調整額									0
繰上調整額									0
繰上調整額									0
正味繰上調整額									65,682,569

II. 事業報告及び決算報告

1. 平成26年度 事業報告（総括）

I. 事業の内容：法人の目的を遂行するために次の事業を行った。

1. 学術大会及び学術教育事業

1) 第63回(公社)全日本鍼灸学会学術大会（愛媛大会）

平成26年5月16日・17日・18日の3日間：愛媛県民文化会館（ひめぎんホール）
参加総数：1,542人 市民公開講座

2) 支部学術集会の開催

①東 北 支 部：平成26年 7月13日：盛岡医療福祉専門学校

北 海 道 地 区：平成26年11月 9日：札幌サンプラザ

②関 東 支 部：平成26年11月30日：東京大学医学部2号館本館 3F大講堂

③中 部 支 部：平成26年11月 9日：(公社) 富山県鍼灸マッサージ師会館

④近 畿 支 部：平成26年11月23日：明治東洋医学院専門学校講堂

⑤中国四国支部：平成26年11月23日・24日：国際ホテル宇部

⑥九 州 支 部：平成26年10月 5日：九州保健福祉大学総合医療専門学校

3) 学術部委員会開催

4) 第64回（ふくしま大会）・第65回（北海道大会）学術大会の企画、準備支援

5) 高木賞選考委員会の開催

2. 学会雑誌の発行事業（学会誌、学術図書及び資料の刊行）

1) 全日本鍼灸学会雑誌の発行

2) その他

3. 調査研究事業（調査研究の実施）

1) 研究・教育・啓発に関する事業

2) 研究助成に関する事業

3) その他

4. 学術交流事業（内外関連学協会との連絡及び協力）

1) 海外鍼灸関連情報の収集と日本への紹介

2) 日本鍼灸関連情報の海外への紹介

3) WHO、WFASその他の国際機関との対応

4) 海外の鍼灸関連学協会との交流

5) その他

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

高木賞奨励賞の授与、学生会員ポスター発表表彰

6. 組織の拡充及び支部活動事業（組織拡充及び支部活動の助成）

1) 支部活動の支援入会促進活動

2) 新卒業生に対する会長表彰

3) 学生会員から正会員への切替促進活動

4) 会員異動の把握、会員名簿管理

5) その他

7. 広報活動の充実

1) Webサイトの更新、作成

2) メールマガジンの編集及び発行

3) その他

8. JLOM関連委員会
 - 1) ISO/TC249関連
 - 2) WHO関連事業について
9. 認定委員会
 - 1) 認定講習の審査
 - 2) 認定審査委員会
 - 3) 認定実務委員会
 - 4) 認定試験委員会
10. グランドデザイン改革推進委員会
 - 1) 事業計画・予算の評価と展望
 - 2) 委員会開催

II. 各種会議の開催

2. 平成27年度 各部事業報告

1) 平成27年度 事務局事業報告

I. 会務運営のための諸会議に関する事、及び会議録の作成並びに保管

1. 通常総会

- 1) 平成27年 5月23日(土) : ビックパレットふくしま

2. 諮問委員会

- 1) 平成27年 5月22日(金) : ビックパレットふくしま
2) 平成27年11月29日(日) : 東京衛生学園専門学校
3) 平成28年 3月13日(日) : 東京衛生学園専門学校

3. 理事会

- 1) 平成27年 4月19日(日) : 日本鍼灸会館
2) 平成27年 5月22日(日) : ビックパレットふくしま
3) 平成27年 7月26日(日) : 日本鍼灸会館
4) 平成27年11月29日(日) : 東京衛生学園専門学校
5) 平成28年 2月14日(日) : 東京医療専門学校
6) 平成28年 3月13日(日) : 東京衛生学園専門学校

4. 常務理事会

- 1) 平成27年 7月26日(日) : 日本鍼灸会館
2) 平成28年 2月14日(日) : 東京医療専門学校

5. 支部運営委員会

- 1) 平成27年 5月22日(日) : ビックパレットふくしま

6. その他の会議

- 1) 予算編成会議(平成28年1月24日): 日本鍼灸会館
2) 各部委員会及び各部小委員会

II. 庶務・事務局及び職員に関する事

1. 事務局備品、事務消耗品等の在庫管理
2. 会員情報の管理

III. 庶務に関する事及び各部の所管に属しない事項

1. 理事会議題資料の収集、整理、作成並びに開催通知の送付
2. 通常総会資料および委任状作成に関する業務
3. 役員および諮問委員改選に係る関連作業
4. 現金出納処理管理および各業者支払および関係部署へ送金
5. 顧問税理士指導による会計処理入力
6. 講師謝礼源泉徴収簿の各支部・編集部・研究助成金受給者確認業務
7. 本部会計および支部会計並びにふくしま大会の会計監査業務
8. 北海道大会・東京大会会計処理業務対応
9. 北海道大会演題発表者資格確認業務及び学術大会会員資格確認業務
10. 関連団体学術大会後援名義の承諾・学術大会及びWFAS2016後援名義使用許可依頼
11. 第65巻2・3・4号、66巻1号雑誌及びふくしま大会抄録集発送事務処理
12. ふくしま大会支援事務委託業者東武トップツアーズ株式会社との関連業務対応

13. ふくしま大会支援委託業者対応および業務処理再確認作業及び打合せ対応
14. WFAS2016支援業者契約書対応・調印、会計処理その他支援業務
15. 研究助成公募残務処理
16. 編集部投稿原稿回付
17. 雑誌広告費請求・収納、掲載データ管理ならびに28年度広告掲載募集作業
18. 別刷り印刷費請求・収納
19. 雑誌返戻会員の対応作業
20. 各種問合せへの対応
21. 海外会員、賛助会員への請求書発送・収納
22. 新規入会者の会員名簿登録及び雑誌送付作業
23. 退会・住所変更など会員名簿保守作業
24. 入会申込不備者への通知作業
25. 会費未納者への督促状発送（27年10月及び28年1月郵送）及び電話対応
26. JCBとの連絡、情報確認、請求データ作成、引落者へ領収書送付及び関連後処理
27. 新卒業生対象会長表彰に係る業務
28. 学校取り纏め学生会員の募集
29. ファックスマガジン発信管理及びメールマガジン送信者登録
30. 認定登録・更新の案内、試験に関する対応、登録手続及び認定証発送手配
31. 認定指定講習会状況の記録入力
32. 認定指定講習会一覧原稿各支部へ依頼および印刷依頼校正・発送依頼
33. 認定講習履修ポイント確認用ホームページへのアップ作業
34. 平成27年度認定ポイント計算プログラムの準備依頼

IV. 官公庁及び鍼灸関連団体との渉外に関すること

1. 官公庁、諸団体からの文書、書簡の整理、保管
2. 内閣府への年次報告書提出
3. 厚生労働省へ学術大会及びWFAS2016の後援名義依頼および収支報告業務
4. 文部科学省へ学術大会及びWFAS2016の後援名義依頼および収支報告業務
5. 鍼灸関連団体との連絡調整

V. 公益法人に関すること

1. 内閣府への報告

2) 平成27年度 学術部事業報告

I. 学術部の基本方針

鍼灸における「学」と「術」を根拠に基づいた医療（EBM: evidence-based medicine）、根拠に基づいた鍼灸医療（EBAM: evidence-based acupuncture medicine）として質を高め、患者に安全で効果的な鍼灸医療を実践できるための成果発表や情報交換、卒前・卒後教育の場、「学会に参加して勉強になった」という学会・学術大会を目指す。

- ・エビデンスに基づく「学」と「術」を発展させるための場の企画・提供
- ・エビデンスに基づく卒後教育・生涯教育としての場の企画・提供

II. 学術大会における企画・方向性：

学術的議論企画、鍼灸社会学的企画、生涯教育・人材育成企画

第64回(公社)全日本鍼灸学術大会（東北支部担当：平成27年、2015年）
2015年5月22-24日「ビッグパレットふくしま」

1. 「学」と「術」の質の向上
(研究過程・成果の発表、ディスカッション、批判的吟味の場の提供)
 - ・ふくしま大会における一般演題の企画：
演題募集、抄録審査、演題採否、セッション、座長選任
2. 最新の鍼灸・医療情報提供（鍼灸師生涯教育）
 - ・セミナー「ここまでわかった鍼灸医学：しびれに対する鍼灸治療の効果と現状」
 - ・教育セミナー「痛みに対する鍼灸の最新事情」
3. 根拠に基づいた鍼灸医療が実践できる鍼灸師育成（生涯教育・人材育成）
 - ・臨床研究ステップアップ・ワークショップセミナー「第4回臨床研究の道標」
 - ・サテライトステップセミナー「頸肩四肢症状に対する病態把握と鍼灸治療」
「排尿障害に対する病態把握と鍼灸治療」
4. これからの鍼灸師を育てる(卒前教育)
 - ・鍼灸臨床ゼミナール「肩こりの病態と鍼灸治療」
5. 2016年北海道大会における本部・学術部・研究部の継続した企画（予定）
 - ・セミナー（ここまでわかった鍼灸医学）：学術部
 - ・教育セミナー：学術部
 - ・パネルディスカッション：スポーツ委員会関連
 - ・パネルディスカッション：医療推進関連
 - ・パネルディスカッション（鍼灸と国際問題）：JLOM関連委員会
 - ・ワークショップ（ステップアップ鍼灸臨床研究）：学術部、研究部
 - ・ワークショップ（安全性委員会、データベース委員会）：研究部
 - ・ゼミナール（鍼灸臨床ゼミナール）：学術部
 - ・サテライトステップアップセミナー：学術部
 - ・チャリティーマラソン大会：スポーツ鍼灸委員会主催
 - ・その他：高木賞表彰式、高木賞授賞講演、学生ポスター発表、学生ポスター表彰式
 - ・会議関係：
理事会、支部運営委員会、顧問参与会議、諮問委員会、鍼灸学術団体協議会

III. 学術部の事業計画

1. 学術部委員会の開催（年2回）
 - ・2015年8月31日（日）京都：明治国際医療大学統合医療センター
内容：学術部の基本方針、ふくしま大会の結果、北海道大会・東京大会の準備状況、今後の学術大会について（KJ法を用いた検討）など
 - ・2016年2月6日（日）京都：明治国際医療大学 京都駅前キャンパス
内容：今後の学術部活動、北海道大会・東京大会の準備状況、学生ポスター発表の抄録審査など
2. 学術大会の企画・支援
第64回(公社)全日本鍼灸学術大会（東北支部担当：平成27年、2015年）

2015年5月22-24日「ビッグパレットふくしま」

- ・2015年05月03日（日）：郡山市 企画調整委員会（福田、伊藤）
- ・2015年05月17日（日）：郡山市 企画調整委員会（伊藤）
- ・企画調整委員会メール会議（福田、伊藤）

第65回(公社)全日本鍼灸学会大会（北海道地区担当：平成28年、2016年）

2016年6月10-12日「札幌コンベンションセンター」

- ・2015年04月04日（土）：札幌市 企画運営委員会（福田）
- ・2015年05月16日（土）：札幌市 企画運営委員会（福田）
- 05月17日（日）：札幌市 プログラム委員会（福田）
- ・2015年07月04日（土）：札幌市 企画運営委員会（福田）
- 07月05日（日）：札幌市 第1回実行委員会（福田）
- ・2015年08月01日（土）：札幌市 企画運営委員会（福田）
- ・2015年09月12日（土）：札幌市 企画運営委員会（福田）
- ・2015年11月14日（土）：札幌市 企画運営委員会（福田）
- ・2016年03月05日（土）：札幌市 企画運営委員会（伊藤、谷口）
- ・企画調整委員会メール会議（福田、伊藤）

第66回(公社)全日本鍼灸学会大会（関東支部担当：平成29年、2017年）

2017年06月09日（金）-11日（日）「東京大学構内」

（金曜日：会議のみ、学会大会は土日）

- ・2015年04月11日（土）：東京都 準備委員会（福田）
- ・2015年05月10日（日）：東京都 準備委員会（福田）
- ・2015年09月19日（土）：東京都 企画調整委員会・スカイプ会議（福田、伊藤）
- ・2015年10月29日（木）：東京都 準備委員会（伊藤）
- ・2015年12月19日（土）：東京都 プログラム委員会（福田）
- ・2016年01月31日（日）：東京都 実行委員会（福田、伊藤）
- ・2016年02月20日（土）：東京都 プログラム委員会（福田）
- ・企画調整委員会メール会議（福田、伊藤）

3. 高木賞選考委員会の開催

- ・2015年11月29日（日）09:00～10:00

対象論文数 3編：

全日本鍼灸学会雑誌 2014年Vol.64(1-4)、Online journal「JAM」に掲載された原著論文

高木賞：基礎部門・臨床部門 該当なし、

高木賞奨励賞

腰痛患者に対する鍼治療 —日本で実施されたRCTのシステマティックレビュー—

下市善紀、春木淳二、若山育郎（関西医療大学 鍼灸学ユニット）

全日本鍼灸学会雑誌、64巻1号、37-53頁、2014.

IV. 「グランドデザイン2020」に基づく改革状況

1. 学会大会の見直し

2017年開催の第66回（公社）全日本鍼灸学会学会大会（関東支部担当）から新たな学会大会を目指して学術部会議で検討を行っている。

2. 日常臨床に役立つ最新の知識や技術が習得できる企画、立案、実施（スキルアップセミナー、e-ラーニング含む）
学術部会議で検討を行っている。

3) 平成27年度 研究部事業報告

I. 会議

1. 研究部運営・依頼作業関連
 - 1) 研究部長・学術部長によるふくしま大会プレスリリース打合せ
2015年5月9日（土）14:00～16:00 大阪阪急グランドビル内Slow Cafeにて
 - 2) 研究部長・学術部正副部長による部門再編に関する会議
2015年7月16日（水）19:30～21:00 京都駅ビル内にて
 - 3) 研究部長・学術部長・専門学校教員による部門再編および教育研修に関する会議
2015年10月1日（水）19:00～21:00 阪急梅田駅地下にて
 - 4) 鍼電極低周波治療器の学会勧告に関する問合せ内容の検討と回答案作成会議
2015年10月23日（金）18:00～21:00 新橋駅前喫茶店にて
2. データベース（DB）委員会
 - 1) DBメンテナンス班会議
2015年11月20日 14:00～17:00 AGREX札幌支社にて
3. 安全性委員会
 - 1) 第1回安全性委員会会議
2015年5月23日（土）16:00～17:00 ビッグパレットふくしまにて
 - 2) 第2回安全性委員会会議
2015年10月3日（土）13:30分.15:00 キャンパスプラザ京都にて
4. 診療ガイドライン委員会
 - 1) 研究部長と鈴木委員長による委員会方針に関する会議
2015年8月6日（木）20:30～21:30 南森町駅前に
5. その他の会議
 - 1) 厚労科研知財関連会議
2015年12月19日（土）13:30～17:30
八重洲ダイビル国立遺伝学研究所連絡所にて

II. 研究・教育・啓発に関する事業

1. DB委員会（高橋則人委員長）
 - 1) 鍼灸文献データベース（JACLID）所蔵文献のキーワード抽出・付与作業
（主として財団助成金、一部学会予算にて）
 - 2) J ACLiDのホーム画面の改訂
2. 安全性委員会（新原寿志委員長）
 - 1) ふくしま大会ワークショップ「鍼治療に対する国内公的保健衛生機関の見解と今後の課題」
 - 2) Webサイト「鍼灸の安全対策」の維持管理・更新（<http://safety.jsam.jp/>）
 - 3) 鍼灸の安全性に関する多施設前向き調査の集計・分析
 - 4) ISO/TC 249 鍼の感染防止対策ガイドラインに対する対応
 - 5) 鍼灸の感染制御・有害事象対策ガイドライン作成準備

- 6) 鍼灸の安全性教育ビデオの作成
- 7) 肝炎に関する記事における鍼灸の取扱いに対する対応（抗議文、問合せ）
3. 診療ガイドライン委員会（鈴木雅雄委員長）
 - 1) 診療ガイドライン作成のロードマップ試作
 - 2) 診療ガイドラインのモデルケース作成可能性検討
4. AcuPOPJ 関連
山下部長が普及啓発作業部会から卒後研修作業部会に異動

III. 研究助成に関する事業

1. 平成23・24年度公募研究助成の研究期間再々延長1件

IV. その他

1. C型肝炎に関して誤解を招く記事への対策
日本鍼灸師会と共同で「NHK きょうの健康」4月号の記載内容に関するNHK出版への抗議 および修正依頼の文案を作成
2. WFAS Tokyo/Tsukuba 2016準備への参画
3. NHK松山放送局からの鍼灸関連情報提供依頼に協力
4. ホームページ問い合わせに対する回答作成協力
 - 1) シーハン症候群についての問合せ
 - 2) 「鍼電極低周波治療器の安全確保のための基準に関する勧告」に関する問い合わせ

4) 平成27年度 編集部事業報告

I. 学会誌の編集に関すること

1. 学会雑誌の発行
 - (公社) 全日本鍼灸学会雑誌65巻2号：平成27年 5月発行
 - (公社) 全日本鍼灸学会雑誌65巻3号：平成27年 8月発行
 - (公社) 全日本鍼灸学会雑誌65巻4号：平成27年11月発行
 - (公社) 全日本鍼灸学会雑誌66巻1号：平成28年 2月発行

II. 編集委員会

1. 開催
 - 1) 第1回 平成27年 6月27日 65(3)の掲載論文等を審議
 - 2) 第2回 平成27年10月26日 65(4)の掲載論文等の審議
 - 3) 第3回 平成27年12月12日 66(1)の掲載論文等を審議
2. 報告
 - 1) JAMのISSN取得
 - 2) JAMのJ-STAGE掲載の決定（平成27年11月9日）
 - 3) ふくしま大会座長推薦論文の実施
3. 新規連載計画案
下記の連載タイトルについて検討したが、実施までには至らなかった。
 - 1) リレーエッセイ
 - 2) トランスレーショナルリサーチ

- 3) 『高木賞を受賞して』
 - 4) 編集部からのお知らせ
 - 5) 論文の書き方及びワークショップの実施
 - 6) 統計の使い方
4. 掲載論文
- 65(2)～66(1)までに掲載した論文
- 原著7編；鍋田論文・友岡論文・小川一論文・伊佐治論文・高梨論文・加藤論文・石神論文
- 報告2編；安藤論文・泉論文
- 臨床体験レポート3編；山形論文・山田論文・高畑論文
- 短報；泉論文
- 編集者への手紙；櫻庭論文・岩元論文・池宗論文・金子論文・渡邊論文・櫻庭論文
5. 投稿論文の取り扱いについて
- 1) 365論文：「呼吸時の鍼刺入抵抗の変化の解析」の内容から検討の諾否を理事会に提案し、学会誌で取り扱う論文の基本方針を確認することにした。
 - 2) 投稿論文の紛失
平成27年5月7日・13日に事務局に届いた論文を編集委員長に送付したが、紛失したことが投稿者からの採否の確認を受けて調査、判明した。
6. 編集委員長の交代
- 1) 新編集委員長の選出
平成27年11月29日開催の理事会において編集部長と編集委員長の兼務が解消されたことを受け、新編集委員長が選出された。筑波技術大学教授 野口栄太郎先生が就任した。
 - 2) 業務引継
 - ① 上級演題、投稿論文、連載予定論文の引き継ぎ。
 - ② 平成27年度収載原著論文の翻訳
 - ③ JAMのPMC収載
JAMをJ-STAGE及び米国国立医学図書館（National Library of Medicine）が運営する1次情報データベースのPub Med Central（PMC）への収載作業。

作業が完了した項目

- A. ライフクリエーションでJAMのホームページの体裁を年毎に区分けした。
- B. ISSNを取得した。
ISSN 2189-5724 Japanese acupuncture and moxibustion
- C. JAMのJ-STAGE収載の決定が決定した。

引き継ぎ項目

- D. JAM掲載論文に個別のDigital Object Identifier（DOI）の付与（平成28年度に実施される予定）
- E. PMCに収載申請
 - a. 2012年以前の論文はTXT形式でないためテキスト化
 - b. JAMをJ-STAGE用に加工
 - c. PMCによるJAMの内容審査
 - d. 50編の英語論文を送付しテスト運用5,000/50論文=250,000円
 - e. 正式契約
- F. 新規論文の掲載（追加収載の経費は1論文あたり約30,000円）

5) 平成27年度 組織部事業報告

I. 支部運営の支援

1. 支部運営委員会の開催 計3回

II. 新卒業生に対する会長表彰について

1. 案内文送付 122校
 - はき養成施設等 44校
 - 視覚特別支援学校等 71校
 - 大学 7校
2. 表彰の申請校 67校
 - はき養成施設等 44校
 - 視覚特別支援学校等 12校
 - 大学 11校

- III. 本部学生会員から正会員へ切替の案内送付 36名

- IV. 学校取り纏め学生会員の勧誘依頼 34校

- V. 日本伝統鍼灸学会、日本臨床鍼灸懇話会殿へ入会金免除の覚え書締結

VI. 会費未納者へ納入依頼状の発送

1. 平成27年10月 6日 605通
2. 平成28年 1月 5日 227通

会員動態

(公社)全日本鍼灸学会 会員数
(都道府県別 正会員/学生会員・学校学生会員/賛助会員)

平成27年3月31日現在

都道府県	正会員数	学生会員数	都道府県	正会員数	学生会員数	都道府県	正会員数	学生会員数
北海道	95	7	長野県	42	0	高知県	12	0
青森県	10	0	岐阜県	36	1	福岡県	104	3
岩手県	9	0	静岡県	73	9	佐賀県	7	0
宮城県	28	0	愛知県	206	3	長崎県	28	0
秋田県	11	0	三重県	81	11	熊本県	33	3
山形県	8	0	滋賀県	22	0	大分県	18	0
福島県	43	2	京都府	190	13	宮崎県	16	0
茨城県	77	1	大阪府	326	11	鹿児島県	41	1
栃木県	16	0	兵庫県	115	2	沖縄県	10	1
群馬県	22	0	奈良県	38	1	国 外	8	0
埼玉県	135	5	和歌山県	23	0	正会員	3,015	
千葉県	81	2	鳥取県	18	0	学生会員	119	
東京都	510	26	島根県	10	0	学校学生会員	1,542	
神奈川県	200	8	岡山県	50	1	賛助会員	29	
新潟県	24	0	広島県	33	0	総 計	4,705	
山梨県	7	0	山口県	26	0			
富山県	35	0	徳島県	5	2			
石川県	42	0	香川県	25	4			
福井県	18	0	愛媛県	48	2			

※名誉会員5名は、正会員に含む

平成26年度入会者(正会員・学生会員) 265名

※関連学会からの入会者を含む

日本伝統鍼灸学会 4名
日本臨床鍼灸懇話会 0名

平成26年度退会者(正会員・学生会員) 329名

月	日本語版jsam.jp解析		英語版jsam.jp解析		日本語版jsam.jp解析		英語版jsam.jp解析	
	14年度		14年度		13年度		13年度	
	Page	Visits	Page	Visits	Page	Visits	Page	Visits
14, 12	13,555	2,768	174	82	13,845	4,308	284	133
14, 11	17,099	3,725	210	107	17,319	5,024	387	145
14, 10	16,938	3,731	212	106	21,460	4,885	425	108
14, 9	16,381	3,310	248	102	18,534	4,579	217	93
14, 8	13,715	2,771	288	87	14,719	4,487		
14, 7	17,251	3,482	305	84	16,471	4,668		
14, 6	21,152	3,354	240	88	26,705	7,607		
14, 5	23,039	4,470	258	114	37,307	9,790		
14, 4	20,500	3,932	358	124	28,570	7,862		
Totals	159,830	31,543	2,293	925	194,938	53,210	1,313	539
Average	15,983	3,154	228	92	21,860	5,912	328	135
平均ページ閲覧数		5.06		2.47		3.86		2.43

(学校学生会員は、上記入退会者の数に含めない)

6) 平成27年度 国際部事業報告

I. 海外鍼灸関連情報の収集と日本への紹介

学会誌「国際部報告」にて以下の報告を行った。

1. WFASトロント大会報告, 66巻1号, 43-51. (若山育郎、石崎直人、斉藤宗則、深澤洋滋、増山祥子、知久すみれ、形井秀一)

II. 日本鍼灸関連情報の海外への紹介

1. 広報部の援助のもと学会英文ホームページの改訂作業を行った。
2. 海外研究発表助成の応募を受け、厳正に審議した結果1名を選出した。
助成者 知久すみれ (筑波大学大学院)
Effect of acupuncture on swallowing function in elderly individuals
(WFASトロント大会で学生ポスター賞2位を獲得)

III. 世界保健機関 (WHO)、世界鍼灸学会連合会 (WFAS)、その他の国際機関との対応

1. WFASカナダトロント大会および執行理事会に国際部員4名が出席した。
2. トロント大会においてWFAS Tokyo/Tsukuba 2016のブースを作り、プロモーションビデオを映写、1stサーキュラーを配布等の広報活動を行った。
3. WFAS事務局の依頼により、日本の功労者2名 (黒須幸男、津谷喜一郎、いずれも副会長経験者) へのインタビューを行い、ビデオメッセージを作成、事務局に送付した。ビデオは、2017年WFAS設立30周年記念回顧録 (memoir) 作成に用いられる予定。
4. WHO working group meeting on practice in acupunctureに関する依頼に対応した。

IV. 海外の鍼灸関連学協会との交流

1. 2015年福島大会において予定していた第7回日韓鍼とEBMワークショップの開催が韓国側からの要請で中止になったが、同じテーマで、2016年北海道大会でワークショップを開催することとし、研究部とともにその準備を行った。
2. 学術部とともに2004年に締結した日韓交流覚書の改訂作業を行った。

V. その他

1. 国際部宛の海外からの問い合わせに対応した。
 - 1) 臨床研修に関する問い合わせ 2件 (インド、ブラジル)
 - 2) 米国人患者からの鍼灸師紹介依頼1件
 - 3) 日本の鍼灸の教育制度に関する問い合わせ1件 (米国)
 - 4) AACMA (Australian Acupuncture & Chinese Medicine Association Ltd) 1件
2. 昨年度、英国David Mayor氏より鍼通電に関して本学会会員を対象としたアンケート調査の依頼があり、ウェブ上でアンケートを実施した (回答者74名) が、その研究成果が論文になったとの知らせがあり、その論文をホームページ上で紹介した。

7) 平成27年度 広報部事業報告

I. Webサイトの更新、作成 <http://jsam.jp/>

Top「トピックス」「お知らせ」の更新作業、バナー作成、アクセス解析、topページマナーチェンジ

データベースの集約化。その他 随時更新作業。

II. メールマガジンの編集及び発行

会員に学会情報を伝達する手段として発行。

定期便：毎月1日に発行（4月から3月号まで）。

学術大会特別便：学術大会情報の特別便。

臨時便：「トピックス」「お知らせ」「支部学術集会案内」等の情報伝達のために随時発行。

1月1日現在登録者2,943件（PC2,619名 携帯324名）（平成25年度2,987件、44件減）

FAXマガジン配信 希望者（100名）

III. 研修会情報

認定講習会情報

他媒体に掲載依頼及び情報提供。

国民のための鍼灸医療推進機構への提供。

IV. 英語版Webサイトの作成、更新、改訂 <http://en.jsam.jp/>

英語版HPの作成、更新、改訂を国際部と共同で行った。

V. 外国人短期見学者の受け入れ先について

Webサイト掲載により受け入れ先参加者の募集を行った。

VI. 外国人短期見学者の受け入

国際部と共同で受け入れに対応している（英語版Webサイトに受け入れ情報を掲載中）。

VII. 学術大会Webサイト管理

64回用のデザインに変更し、管理を行っている（更新作業は実行委員会にお願いしている）。

VIII. その他の広報活動

安全性委員会Webサイト管理を行った。

2014年度アクセス件数

結果

・主な参照ページ

Topページ、ふくしま大会、オンラインジャーナル、抄録作成のポイント、基礎と臨床の交流

・主な検索単語

全日本鍼灸学会、鍼灸、鍼灸学会、鍼、学会、全日本鍼灸、日本鍼灸学会

・主なアクセス国

和文ページ

Japan (97.81%), USA (0.48%), Brazil (0.35%), South Korea (0.19%), China (0.14%)

英文ページ

Japan (33.3%), USA (23.77%), Brazil (4.81%), Australia (3.18%), India (2.81%)

・考察

- ・検索単語は圧倒的に『全日本鍼灸学会』が多かった。
- ・臨時メールマガジン配信日は、PagesView、Visits数が増加する傾向があった。
- ・ホームページ閲覧に導く導線としてのメルマガ配信の有用性が確認できた。

8) 平成26年度 JLOM 関連委員会事業報告

I. ISO/TC249 関連

ISO/TC249で検討対象となっている案件に対応するため、以下の国際会議に出席するとともに、国内会議を実施した。

【国際会議】

1. TC249 the 5th plenary meeting

日 時：2014年5月26～29日

場 所：京都 ハイアットリージェンシー京都

会議出席登録者数 (211名)

会議出席 (WG3, 4, 5)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 東郷俊宏 (東京有明医療大学) | ・木村友昭 (東京有明医療大学) |
| 形井秀一 (筑波技術大学) | ・中田健吾 (国際医療福祉大学) |
| 小田口浩 (北里大学) | ・川鍋伊晃 (北里大学) |
| 藤林初枝 (全日本鍼灸学会) | ・若山育郎 (関西医療大学) |
| 斉藤宗則 (明治国際医療大学) | |
| 金安義文 (山正 日本理学療法機器工業会) | |
| 樋口亜紀子 (山正 日本理学療法機器工業会) | |
| 齋藤健司 (カナケン 日本理学療法機器工業会) | |
| 中野亮一 (セイリン 日本理学療法機器工業会) | |
| 矢島葉子 (セイリン 日本理学療法機器工業会) | |
| 北川裕泰 (セイリン 日本理学療法機器工業会) | |
| 中澤宏文 (富士通研究所) | ・Mi Xiaoyu (富士通研究所) |
- (東郷・中田はWG3, 4, 5に出席。なお斉藤宗則がWG5に出席)

2. ISO/TC215 Meeting

日 時：2014年10月6日～9日

場 所：Berlin, Germany (DIN)

参加者：東郷俊宏・廣瀬康行・斉藤宗則 (以上JLOM関連委員会) 牧野利明

【国内会議】

日 時：5月14日

場 所：東京有明医療大学

参加者：和辻 直 (明治国際医療大学)・中田健吾 (国際医療福祉大学)
東郷俊宏 (東京有明医療大学)

日 時：7月18日

場 所：ホテルアーヴェスト蒲田

参加者：斉藤宗則（明治国際医療大学）・廣瀬康行（琉球大学）
東郷俊宏（東京有明医療大学）

日 時：12月23日

場 所：五反田 喫茶店「集」

参加者：新原寿志（明治国際医療大学）・菅原正秋（東京有明医療大学）・
正村謙二（関東労災病院）・東郷俊宏（東京有明医療大学）

日 時：1月20日

場 所：秋葉原「ルノアール」

参加者：新原寿志（明治国際医療大学）・形井秀一（筑波技術大学）
東郷俊宏（東京有明医療大学）

【TC249 安全性案件について】

TC249/WG3で韓国・中国より提起された安全性に関する案件について研究部安全性委員会メンバーとともに対応策を協議するとともに関連論文（中国語）の翻訳を行った。

【ISO/TC249 関連報告会の実施】

以下の学術大会において、JLOM 関連委員会の報告を行った

1) 日本東洋医学会学術総会（6月29日 東京）

「国際化について－JLOM 活動報告」

司会：小田口浩 東郷俊宏

発表：渡辺賢治（慶應義塾大学）・矢久保修嗣（日本大学）・
東郷俊宏（東京有明医療大学）・安井廣迪（安井医院）

2) 全日本鍼灸学会 学術大会（5月17日 於：松山）

「国際標準化と日本鍼灸－ISO/TC249 第5回全体会議（Plenary Meeting: 京都）にむけて－国際標準化は日本の鍼灸をどのように変えていくか」

司会：東郷俊宏

発表：木村友昭（東京有明医療大学）・松本 毅（千葉大学）

II. WHO 関連事業について

1. WHO/WPRO における Health Indicator 作成会議（9月16～18日 中国長沙）に向けて国内対策会議を行った（8月26日 丸の内GLASS Room）。

〔出席者〕後藤修司・石川友章・矢野 忠・坂本 歩・小野直哉・津田昌樹・
坂部昌明・廣瀬康行・東郷俊宏

2. ICD 11 改定事業について

日本東洋医学会用語委員会とともに標題の事業について鍼灸領域から意見を提出した。

9) 平成26年度 認定委員会事業報告

I. 認定講習の審査

支部及び各都道府県研修会からの認定講習申請の審査及び指定通知の発行、HP掲載

II. 認定審査委員会

1. 第1・6・11回登録更新者（平成26年4月1日付）：100名
2. 第16回登録申請者（認定試験によるもの）：12名

Ⅲ. 認定実務委員会の開催

日 時：平成27年1月24日(土)、3月7日(土)

Ⅳ. 認定登録申請の案内

1. 第17回申請対象者への申請案内：125名 12月9日送付（1月16日締切）
2. 第2・7・12回登録者への更新案内：32名 1月送付（3月31日締切）
3. 第1・6・11回登録更新保留者：23名 1月送付（3月31日締切）

Ⅴ. 認定試験委員会

1. 第10回認定試験（第16回登録該当者）受験者数：12名 合格者：12名
 2. 平成26年度（第11回）認定試験実施要綱及び試験問題をHP上に告知
 - 1) 受験申請期間 平成27年1月16日迄
 - 2) 試験期間（提出期間）平成27年1月19日～2月23日
 - 3) 試験問題 ①医の倫理1題 ②関係法規・公衆衛生学領域1題
③鍼灸学史（黄帝内経・難経等の医古文の論考）1題
④鍼灸基礎医学領域1題 ⑤鍼灸臨床医学領域2題
- 受験者数：16名

Ⅵ. 認定指定研修状況

雑誌発行時に認定指定講習会一覧を同封して発送した

Ⅶ. その他

10) 平成26年度 グランドデザイン改革推進委員会事業報告

- I. 平成26年7月27日理事会でグランドデザイン2020に基づいた各部の事業計画、予算作成の依頼
- II. 平成26年11月16日理事会で各部が作成した事業計画・予算の評価と要望
- III. グランドデザイン改革推進委員会の開催
 1. 第1回 平成26年7月27日（日） 日本鍼灸会館 4階会議室
 2. 第2回 平成26年11月2日（日） 日本鍼灸会館 4階会議室
 3. 第3回 平成27年1月18日（日） 日本鍼灸会館 4階会議室

11) 平成26年度 スポーツ鍼灸委員会事業報告

- I. スポーツ鍼灸委員会の活動に関すること
 1. 学術大会におけるシンポジウムの開催
第63回愛媛大会でパネルディスカッションを開催した。
タイトル；東京オリンピック・パラリンピックに向けて我々は何をすべきか～今までの総括、これからの目標
 2. 学会誌への投稿
 - 1) パネルディスカッションの内容の掲載

- 2) 「編集者への手紙」でスポーツ鍼灸の現状報告
64(3)、64(4)、65(1)の計3回。
3. スポーツ鍼灸委員会の開催
 - 1) 平成26年4月23日(水)
 - 2) 平成27年2月1日(日)

II. その他

医道の日本誌2014, 5号でスポーツ鍼灸委員会の設置を報告した。

3. 平成26年度 収支決算書

平成26年度財務諸表及び附属明細書並びに財産目録

当日配布

4. 平成26年度 監査報告書

平成26年度監査報告書

当日配布

Ⅲ. 規則または規程変更の件

1. 会員規程

仮入会に係る第14条を削除

**公益社団法人 全日本鍼灸学会
会員規程（案）**

（目的）

第1条 この規程は、定款第6条および第8条、第9条に基づき、この法人（以下「本学会」という。）の会員の入会及び退会並びに入会金及び会費の納入に関し必要な事項を定めるものとする。

（種別）

第2条 定款第6条に基づき次の会員を置く。

- （1）正会員 本学会の事業に賛同して入会した鍼灸師、医師並びに鍼灸に関する研究業績又は学識を有する者
- （2）学生会員 本学会の事業に賛同して入会した鍼灸又は医学など関連の教育機関に学籍を有する者
- （3）賛助会員 本学会の目的に賛同し、その事業を援助する個人又は団体
- （4）名誉会員 本学会に特に功労のあった者で、理事会の議決により総会の承認を得た者

（会費及び入会金）

第3条 会員は、入会するときに入会金10,000円並びに年会費を、以後毎年年会費を納入しなければならない。

2. 年会費は下記のとおりとする。

- （1）正会員 10,000円
- （2）学生会員 5,000円
- （3）賛助会員 一口20,000円

3. 年会費は当該年度の4月から9月末日までに納入しなければならない。

（会費の使途）

第4条 第3条の正会員および学生会員の会費及び入会金は、毎事業年度における合計額の50%以上を当該年度の公益目的事業に使用する。賛助会員の会費および入会金は50%以上を管理費に充てるものとする。

（入会手続）

第5条 この学会に入会しようとする者は、次の書類等を学会会長に提出するものとする。

- （1）所定の入会申込書、理事会の定めた書類および会員名簿用紙
- （2）はり師・きゅう師又は医師免許の写しあるいは免許登録番号
- （3）はり師・きゅう師・医師以外の者は、所属する鍼灸関連機関の身分証明書の写し1通または鍼灸に関する研究業績等の資料
- （4）学生会員にあつては学生証の写し1通または在学証明書

（入会審査）

第6条 理事は第5条に規定する書類をもとにした入会審査チェックリストにより審査を行い、その結果を本部組織部に回答する。

(入会の許可)

第7条 全理事の審査により全員一致で認められた者は、入会を許可する。

2. 入会が許可された者について、会長は直ちに入会決定通知により本人に通知しなければならない。

(再審査)

第8条 入会審査の結果、全員一致で認められない者については、直近の理事会において再審査する。

(会員登録)

第9条 入会審査の結果、入会を許可し、規定の手続きを完了した者は会員台帳に登録する。

(理事会への報告)

第10条 会長は新たに会員となった者について、理事会に報告しなければならない。

(入会金等の返還)

第11条 入会を許可しなかった者に対しては、入会金および当該年度会費を返還する。但し、返還に要した費用は差し引くものとする。

(除名)

第12条 会員が下記各号の事由に該当するときは、理事会の決議により除名することができる。

- (1) 違法行為又は著しく道義に悖る行為をするなど、会員として相応しくないと認められるとき
 - (2) 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第6条第6号に該当するに至ったとき
2. 会員の除名が審議される理事会において、当該会員には弁明の機会を与えなければならない。

(退会)

第13条 会員はいつでも退会通知を本学会に提出することにより、退会することができる。

2. 正当な理由がなく会費を1年分以上滞納したときは退会とする。なお、その際当該年度の学会誌は返還しなければならない。
3. 会費を1年以上滞納し退会したものが再入会する場合は滞納した年会費と入会金、当該年度会費を支払わなければならない。なおその際、滞納した年度の学会誌は配布しないものとする。
4. 前2項の場合、既納の入会金、会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

—(仮入会)—

第14条 学術大会等の開催時に入会を希望する者は、次の書類等を学会会長に提出することにより仮入会を認めることがある。

- (1) 仮入会申込書
- (2) 入会金および当該年度会費
- 2. 仮入会時の学術大会等の参加費等は会員扱いとする。—

- 3. 仮入会者は、第2条の規定に従い仮入会后2週間以内に手続きを行い、仮入会受付証及び入会金・年度会費受領証の写しを添付することとする。
- 4. 入会を許可しなかった者に対しては第11条の規定を適用する。仮入会時の学会大会の参加費等は非会員扱いとして差額を差し引くものとする。
- 5. 学会大会等の開催直前に入会申込をした場合は仮入会とすることがある。

(入会金及び会費の減免)

第14条 入会の促進を図る目的で関連学術団体の会員と賛助団体の推薦者の入会金及び会費については理事会において免除することができる。

- 2. 学生会員が卒業後1年以内に正会員になるときは入会金を必要としない。
- 3. 学生会員が卒業する年度中に正会員への切り替え手続きを行った場合は、理事会において次年度の正会員会費を減額することができる。

(規程の変更)

第15条 この規程は、総会の議決を経なければ変更することはできない。

附 則

- 1. 本規程は、平成12年6月10日の総会承認を得て、平成12年4月1日に遡って施行する。
- 2. 本規程による取り扱いに必要な書類等は、平成12年3月31日までに本部事務局に配備する。
- 3. 本規程は、平成17年6月11日の総会承認により一部変更する。
- 4. 本規程は、平成20年5月31日の総会承認により一部変更する。
- 5. 本規程は、平成22年6月11日の理事会議決により一部変更する。
- 6. 本規程は、平成24年3月20日の理事会、平成24年6月9日の総会決議により改正し、公益社団法人登記の日より施行する。
- 7. 本規程は、平成26年3月23日の理事会、平成26年5月17日の総会決議により改正し、施行する。
- 8. 本規程は、平成27年2月15日の理事会、平成27年5月23日の総会決議により改正し、施行する。